

第7回産業建設常任委員会会議録

- 1 開会日時 令和元年7月16日（火）午後1時0分
- 2 閉会日時 令和元年7月16日（火）午後3時37分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
4番 佐々木雄司君 6番 保田 守君 8番 治徳 義明君
10番 行本 恭庸君 14番 佐藤 武文君 18番 金谷 文則君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
市長 友實 武則君 副市長 前田 正之君
副市長 川島 明昌君 産業振興部長 有馬 唯常君
建設事業部長 杉原 洋二君 赤坂支所長 土井 常男君
熊山支所長 矢部 恭英君 吉井支所長 是松 誠君
農林課長 矢部 勉君 商工観光課長 大崎 文裕君
地域整備推進室長 菊地 良典君 建設課長 福圓 章浩君
上下水道課長 金島 正樹君 赤坂支所産業建設課長 森本 一也君
熊山支所産業建設課長 光田 尚人君 吉井支所産業建設課長 中務 浩行君
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 元宗 昭二君 主 幹 黒田 未来君
- 8 協議事項 1) 事業の進捗状況について
2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午後1時0分 開会

○委員長（佐々木雄司君） ただいまより第7回産業建設常任委員会を開会いたします。

初めに、友實市長より挨拶をお願いいたします。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 皆様、きょうは大変暑い中、またお忙しい中、第7回の産業建設常任委員会を開催いただきましてありがとうございます。午前中は、暑い中、視察のほうに行っていました。また、参考にしながら、議論を深めていけばいいかなと思っております。

本日の協議事項でございますけども、今年度の事業の進捗状況並びにその他の項でお願いを申します。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○委員長（佐々木雄司君） ありがとうございます。

○委員（金谷文則君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） ちょっと最初で申しわけないんですが、実は6月の議会の際に、佐々木議員に対しての、議会全体での議決としてされてる問題が1つあります。そのことについて、議員としてそれこそ一番厳しい内容の議決を11人の人が賛成をされたというようなことがありまして、それから終わっての最初の委員会ということでもあります。やはり我々の審議に対しても議会で大変厳しいことが決まった以上は、この委員会の中でどのように考えてやっていくのか、一度議論をしてから委員会を進めていただきたいと思っておりますので、ぜひその件について取り上げていただきたいというふうに思います。

○委員長（佐々木雄司君） 今、金谷委員のほうから、以上のような内容の提案と申しますかお話があったわけでありまして、これについてどういう扱いをさせていただいたらいいでしょうか。執行部の方々もいらっやっておりますし、きょう、もともと決まっておりますのは委員会運営でございますから、これを進めさせていただいた後にその他の項目か何かでやっていただくのか、それとも趣旨というのは議決が出た後のことなので、委員会をどのように考えていくのかということなので、委員会に入らせていただく前にこの内容を扱っていただくのか、どのようにさせていただいたらよろしいでしょうか。御意見ありましたら。

○委員（金谷文則君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） はい。

○委員（金谷文則君） まず、委員会をやるかやらないかとか、委員会の進め方についてですので、ぜひ最初に皆さんに協議いただいて、それで進めていただかないといけないと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○委員長（佐々木雄司君） 金谷委員のほうから再び以上のようなお話が出ましたけども、委

員会をちょっと中断させていただいて、冒頭にこのお話を取り扱わせていただいでよろしいでしょうか。

○委員（佐藤武文君） よろしいか。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 暫時休憩をして、このことについて議論を深めさせていただくほうがよろしいのではないかと思います。

○委員長（佐々木雄司君） 暫時休憩の申し出がありましたので、ただいまより暫時休憩とさせていただきます。

午後1時4分 休憩

午後1時21分 再開

○委員長（佐々木雄司君） 再開いたします。

今、いろいろ委員の皆さん方に御協議いただきまして、佐々木はどうなんだというところのお話になりました。私といたしましては、いろいろ皆様方には御心配をおかけしたりお騒がせしているようなことはありますけれども、この産業建設常任委員会の委員長を引き受けた限りには、全身全霊を持ってこの委員会運営に引き続き努めていきたいと思っておりますので、皆さん方の御理解と御協力方よろしくお願いいたします。

それでは、これから協議事項に入らせていただきたいと思えます。

1 番目、事業の進捗状況につきまして、産業振興部から御説明をお願いいたします。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） それでは、産業振興部関係の事業の進捗状況につきまして、農林課、商工観光課、それぞれ担当課長のほうより御説明を申し上げます。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） それでは、産業振興部資料の1ページをごらんください。

1、事業の進捗状況でございます。

(1)の施設維持管理事業についてと(2)の就農等支援センター事業につきましては、資料の12ページ、A4の横ですけども、こちらをごらんください。

表が4段に分かれておりますけれども、上から2番目の表にお示ししております。御確認をお願いいたします。

それから、1ページに戻ってください。

(3)小型鳥獣捕獲講習会についてでございます。

6月23日に講習会を行いまして、今年度は10名の御参加をいただいております。

それから、次に(4)をごらんください。

赤磐産の農作物のPRと販路拡大に向けまして、7月11日から4日間、沖縄におきまして、日本航空グループ、沖縄ツーリスト、岡山県で桃のPRを行いました。沖縄を訪れる観光客につきましましては、特に東アジア地域の外国人旅行者が多く、その数も増加傾向にありますので、こちらで試食と販売イベントを行うことで多くの国内外の方に赤磐産農作物を御紹介でき、同時に赤磐の魅力も発信できるものと考えております。

それから、(5)をごらんください。

あかいわ農業マルシェについてでございます。

地域おこし協力隊と赤磐市内の農業活性化を目指すグループ、AKAIWA農業盛りあげ隊が新規就農した若手農家と消費者との結びつきをつくるため、農作物を対面販売するマルシェを、7月から9月において毎月開催いたします。AKAIWA農業盛りあげ隊の活動につきましましては、市民活動の実践モデル事業に採択されております。4ページをごらんいただくと、パンフレットをつけておりますので、また後でゆっくりごらんになっていただけたらと思います。

なお、7月13日におきまして、第1回目が開催されておりますが、地域でとれた野菜や果物、それから花の苗、加工品等の販売がございまして、盛況な様子でございました。

それから、2ページの(6)をごらんください。

社員食堂を活用した赤磐市農産物・特産品PR・販路拡大についてでございます。

昨年に続きまして、今年度は7月17日に実施予定でございますけれども、大阪ヤンマー本社ビル内の社員食堂におきまして実施いたします。年間を通して本市の農作物等の魅力をPRすることにより、生産者と消費者でもある企業との交流を図り、赤磐市への誘客や消費拡大につながることを目的として実施しております。29年度から取り組んでおりますが、イベントとしてかなり定着しておりまして、また毎回、次回開催の要望もいただきまして、継続開催の効果も十分見られるものでございます。

以上です。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） それでは、商工観光課から事業の進捗状況について説明いたします。

産業振興部資料の5ページをお願いいたします。

(1) 工事等の進捗状況についてでございます。

資料のほう、12ページをお願いいたします。

商工観光課関係の主な工事などにつきましては、一覧表の中央から下の2段が令和元年度、それから繰越事業にかかわる進捗状況でございます。後ほど御確認をいただけたらと思います。

続きまして、5ページへお戻りください。

(2)赤磐市花火大会「夏祭りあかいわ2019」についてでございます。

ふるさと意識の高揚、市民相互の交流を促進するとともに、赤磐市をPRしイメージアップを図るため、赤磐市花火大会実行委員会の主宰により赤磐市花火大会「夏祭りあかいわ2019」を令和元年8月11日日曜日、山の日の祝日でございます、午後6時から午後8時までの間、赤磐市くまやま水辺の楽校で開催いたします。フラダンスなどの舞台発表や模擬店の出店がございまして、午後8時ごろから約2,000発の花火の打ち上げを行う予定でございます。資料の7ページ、こちらのほうに花火大会のポスターの写しをつけておりますので、後ほど御確認いただけたらと思います。

続きまして、資料の5ページのほう、お戻りください。

(3)熊山英国庭園の今後の方針についてでございます。

熊山英国庭園につきましては、5ページの入場者数の資料を添付しておりますが、毎年来園者数が3万人を超える市のシンボリックな観光施設でございます。今後も施設の維持管理などを適正に行いまして、熊山英国庭園活性化委員会やその他の団体などとの連携を図りながら、観光客誘致や市民の憩いの場として有効活用を努めていかなければならないと考えております。

また、さまざまな課題につきましては、条件整備が整ったものから順次事業化して、解決に努めていきたいと考えております。

続きまして、資料の6ページをお願いいたします。

外国人旅行者受け入れ環境調査についてでございます。資料につきましては、8ページ、こちらのほうに掲載をさせていただいております。

外国人観光客が快適に観光できる環境の充実を図ることや、外国人観光客目線で本市の観光資源の洗い出しを行うことを目的に、JALの海外勤務外国人スタッフを招聘いたしまして、外国人旅行者受け入れ環境調査を行うものでございます。調査時期は8月4日から8月6日、2泊3日を予定しております。

商工観光課からの報告は以上で説明を終わります。

○委員長（佐々木雄司君） ただいま産業振興部の説明が終わりました。

いつも課ごとに質疑を受け付けさせていただいておりますが、今回も課ごとに質疑のほうを受けたいと思います。

つきましては、農林課のほうから受け付けますので、委員の皆さん、何かございませんでしょうか。

○委員（治徳義明君） はい。

○委員長（佐々木雄司君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） 農林課のあかいわ農業マルシェについて、ちょっと確認をさせていただきます。地域おこし協力隊がかかわってるというふうな形なんですけど、具体的にどういうふう

な形になるのか、ちょっと説明をお願いします。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） あかいわ農業マルシェにつきましては、実は今年度から実施されるものでございますけれども、この地域おこし協力隊の隊員が山本隊員と申します。協力隊についてはよく委員も御存じだと思いますけども、この地域で3年間活動されます。この方も農業のことについて盛り上げようということで、協力隊をお引き受けいただいているんですけども、AKAIWA農業盛りあげ隊については、また地域のそういう農産品等を扱う、新規就農とか就農を目指している方とか、農大生や主婦、いろいろな方がかかわっておられますけども、その中に協力隊の方もまじって一緒にマルシェをされております。

以上です。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） 要はお一人ということによろしいんですか。濟いません、もともと何を目的にされとるか、たくさんいらっしゃるの、山本さんというお話でしたけど、ちょっとお名前だけでは、もともとどういった形で地域おこし協力隊として募集した方なのか、その辺ちょっと詳しく教えてください。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） 今、農林課にかかわっておられる協力隊の方は2名いらっしゃいます。1人は山本さんで、女性なんですけども、それからもう1人女性で成田さんとおっしゃいます。成田さんについては、是里のほうで、やっぱり農業の関係の協力隊、地域のことにいろいろな面でかかわっておられるんですけども、この方ももちろん3年縛りなんですけれども、協力隊としていらっしゃいます。それから、山本さんも農林課の関係の事業について協力をしていくということで、協力隊をお引き受けいただいております。

○委員長（佐々木雄司君） 矢部課長、先ほどの治徳委員の質問が、どういったことをもともととしていただいている方なんでしょうかというようなところの質問だったように思うんですけども、そこら辺、答えられますか。

○農林課長（矢部 勉君） もともとが、この地域の方ではありません。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 有馬産業振興部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 治徳委員の御質問に答弁させていただきます。

先ほど担当課長の申しあげました地域おこし協力隊員、こちらの隊員につきましては、地産地消コーディネーターという立場で活躍いただいております。その隊員と、それ

から先ほど説明の中にありました、チラシ4ページの中段やや下に白抜きで掲げておりますけれども、AKAIWA農業盛りあげ隊、こちら、陽なたぼっこさん、こちらのほうと連携を図ってこういう盛りあげ隊を作っておるような状態でございます。地域おこし協力隊が活動してきました市内の農産品の情報、直売所、こうしたことの連携を図りながら、得た情報をもとに、先ほど担当課長が申しあげましたとおり、生産者、消費者と連携を図りたいという思いでこの活動を進めていただいております。

以上です。

○委員長（佐々木雄司君） そのほか、何かありますでしょうか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 就農等支援センターのことについてちょっとお伺いしたいんですけど、今、造成工事の進捗率が非常によくはないということで、きょう、三徳園を視察させていただいて、この事業の難しさというものを痛切に感じ受けとめたような状況なんです。この事業について、私は賛成した議員の1人として、大変やり方に問題があったのではないかなということ非常に反省をいたしております。そのことの中で、今後の就農等支援センターの計画について報告をしていただきたいということと、私は、消防署の裏を何か造成をしておるんだけど、あそこに農協が来るんじゃないかってという話がある市民の方からお聞きをしました。いや、とんでもない、農協やこう、そんなところへ行きやしませんということをお話をさせていただいたところ、農協の関係者の会議の中でそういう話が出て、あたかもそのことが決まっておるような話になっておるといようなことを私は耳にいたしております。そういうことが事実あるということが、私は全くそういうふうなことはあるとは思っておりませんが、そういうことの信憑性があるのかないのかということについても、確認をさせていただきたいと思います。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 友實市長。

○市長（友實武則君） まず、私のほうから、農協とこの土地の関係についてのお尋ねにお答えさせていただきます。

委員のおっしゃるとおり、この土地の取得、そして造成工事等に農協の介在は一切ございません。あそこに農協を誘致するという話も、私、考えているところではございません。そこははっきり言わせていただきます。

あとの質問に対しては、担当のほうからお答えさせていただきます。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） 佐藤委員がおっしゃられましたのは、工事の進捗状況だと思うん

ですけれども、進捗状況は、12ページにございます進捗率が表を見ていただくと33%ということにはなっております。ただ結局公共工事などの建設残土を入れております関係で、どうしても予定どおり土が入ってこないということもございます。また、今後もその建設残土が発生するとどんどん進捗していくわけですけれども、見た目、大分宅盤が上がってるんですけども、もうちょっと時間がかかるというところございます。済いません。

以上です。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 私は、この就農等支援センターの今後の計画についてお伺いしておりますんですけど。要するに、建設残土があろうがなかろうが、就農等支援センターは赤磐市としてどういうふうな形で進めていくのか。この就農等支援センターの関係については、きのう、きょうお話が出た事業じゃないんです。何年も前からこの事業については、私は再三再四説明を受けて、大変すばらしい事業であるということの中で賛成をした議員の1人であります。しかしながら、当委員会の中においては、この事業に対して非常に懸念を持っておられる委員さんもおられます。その当時は、私はこの事業についてぜひ進めていただきたいということで、強いそういうふうな希望も持っておりました。しかしながら、この事業が何年たっても前に進まない。いつまでたっても足踏みをしておるとい状況の中で、将来の、これから先の進捗状況についてお伺いをいたしております。

それから、本日三徳園を視察させていただいて、この事業の難しさということを痛切に感じさせていただいております。そういうことの中で、この事業そのものに対しての危惧も非常に強く私は持ちました。そういう心配が非常に大きいものであるから、今後の計画についてお伺いをさせていただいておりますので、そのことについてお答えをいただきたいと思っております。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） ただいまの委員の御質問でございます。

実は、12ページを再びごらんいただきたいんですけれども、上から2番目の表でございます。赤磐市就農等支援センターは、暫定工事がございまして、それからその次です。赤磐市農業振興基本計画策定委託を、これ今、ちょうど7月からでございますけれども、コンサルティングをお願いしております。今後の進んでいくべきビジョンとか、そういったものをお示ししたものをつくるわけでございます。その中でいろいろな赤磐市が進んでいくべき農業の支援センターのあるべき姿、こういったものを描いていきたいと考えております。

以上でございます。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） ちょっと計画がおかしいんじゃないですかね。要するに、将来の赤磐市の農業はどうあるべきかという考え方の中から、就農等支援センターを設置して、新規就農者の育成をする、あるいは高品質の農産物の生産をしていくという大きな課題、目的があった中で進めておられると思うんです。今になってまたもとに戻って、そういうふうな赤磐市のビジョンについて計画を立てられるということに対しては、計画性に全く、今言う無理といいますが、計画性のないような事業を赤磐市では進めておったというふうにとらざるを得ないんじゃないですか、これ。こんなことでこの事業そのものが、私は前に行くように思えません。再度お聞きしますけど、この事業、いつまでに、今事業を完成する目標を立てておられるのかということについて、明確にお答えしていただきたいと思います。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 有馬産業振興部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） ただいま御質問いただきましたこの就農等支援センターの事業につきましては、関係者の方々の御意見を聞きながら、具体的に申し上げますと経営・生産対策推進会議、こうした中でも議論を重ねながら進めてきたところでございます。そうした議論の中で、やはり農業を取り巻く対策といたしましては、攻めの取り組みと守りの取り組み。攻めの取り組みの分野では、農産物のブランド化、高品質化、これにあわせて、先ほど担当課長のほうが説明申し上げました就農支援という取り組みが必要であるという結論づけがなされておりました。もう1つ、守りの取り組みといたしましては、中山間地域でありますとか、多面的機能支払交付金、こうしたものを活用して農地を守っていくという、こういう大きな3つの柱を掲げて農業政策を進めてきたところでございます。そうした中で、用地取得、造成工事まで進んできたわけですが、その事業を進めておるさなかに、岡山県のほうで、本日視察をいただいたような三徳園の施設整備がなされた状況でございます。近隣にこういう施設ができたということも踏まえまして、この農業振興に当たっての就農等支援センターの役割、これをもう一度明確化したいということで、さきに担当課長も申し上げましたとおり、赤磐市の農業基本計画、こうしたものをいま一度整理をして、就農等支援センターに持たせる役割を皆様と議論していきたいというふうに考えております。この議論の結果をもちまして事業を進めていきたいと思っておりますので、箱物とかそういうものありきでは今考えておりません。きょう、視察いただいたように、施設園芸、こうしたものが多分現場には必要になるんじゃないかと思っております。そうした課題整理ができましたら、順次事業を整理し進めてまいりたいと考えております。

○委員長（佐々木雄司君） 部長、いつぐらいまでにというようなめどをお尋ねになられてたんですが、それがわかれば。

佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） とんでもない、今、有馬部長のほうから答弁をいただいたんです。要

するにこの事業をやるということの中で、一番最初のころは、いろんな説明を我々委員会の中でしていただいております。新しく委員になられた方もおられますけど、私はずっと以前からこの委員に在職いたしておりますので、この事業の内容については何回も、耳にたこができるほど私はお聞きをさせていただいております。しかしながら、今お聞きした答弁によりますと、白紙に戻ってる状況じゃないですか。白紙に戻すんだったら、戻すということを当委員会に報告すべきじゃないんですか。今さらそういうふうな白紙に戻ったような言い方を聞くということに対しては、これは甚だしい委員会軽視に私はなると思いますよ。もう少し、この事業について、本当に本気でやる気があるんだったら、我々委員会と一緒にやってください、やろうじゃないかということ、当初はそういうことを持ちかけておったにもかかわらず、都合悪くなったら我々に何も報告をしない。そして、尋ねれば、白紙に戻って、今まだ検討しておるような状況なんだと、とんでもないこれは答弁じゃないですか。皆さん、どう思われますか。私は今の答弁に対しては非常に怒りを感じますよ。これでいいんですかね、委員会運営としてよろしいですか。私は非常に怒りを感じましたけど。とんでもない答弁ですよ。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 関連ですか。

○委員（行本恭庸君） お尋ね。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 12ページの、就農等支援センターの造成工事の関係と、その次、赤磐市農業振興計画策定委託業務、1,300万円からの銭が組んであるわけじゃけど。それで、就農等支援センターをするためにも、これに絡んでくるわけでしょ。そしたら、今までの就農等支援センターのやり方が、今、佐藤委員も言われたけど、我々、ずっと前から言うとりますよ。私は最初はそのやることの内容はよろしい、認めましょうと。だけど、場所については、あそこはだめじゃというのをはっきり言うてきました。しかしまあ、総意で、結局場所もあそこじゃから仕方なしに、場所もあそこで私も不満足であるけど、まあ進める以上は協力せにゃいけんと思うてやってきとります。しかし、きょうの三徳園を見ても、あれだけの耕地の中で、いろいろ桃をしたり、ぶどうをしたり、野菜物をしたりしとるけど、あれ以上ぐらいのものをするんならまだわかるけれど、たかだかあその土地で、今獲得しとる土地の1ヘクほどしかないわけですよ、まだ農地として使う部分が。それで、ほんならあれを見て、1ヘクの中でどれだけのものにおさめてできるんだらうかと思うて、私はもうきょう、不安に駆られたんですけど。幸いなことにもう1ヘクほど残っとるところがあるから、それを足してもどうかなという問題もあるし、それから今の農業自体の、きょうも説明を受けて聞こうと思うんですけど、言うたって答弁ようせんじゃろうと思うてやめたんですけど。やはりああいう技術を習得するための施設をつくるのは確かにいいことじゃと思う。しかし、技術を習得し、それから農地はどこの荒廃地でも提供してもらって、場所に見合ったとこでやっていくというやり方で、土地

の問題はそういう方向で解決すると思うんですけど、そこへ例えばいきなり収入が上がるようなものをするならわかりますけど、まず果樹といえばモモクリ3年柿8年と言われるぐらいで、やっぱしそれだけの間、収入がないわけですから、設備投資はせにゃあいけん。それを誰がほんなら支えていくのか。やることと実際にそれについてきてくれる人が何人おられるんか。飯を食わずには生活ができませんから。それにはお金が要る。そりゃあ確かに、今やっとなる事業の中に県からお金をもらってる3年間じゃけど、そういうふうな支援制度等もありますわね。だから、そのことでは是里のほうでぶどうをしておるような人も何人かは定着してやってくれとる。だから、せめてそういうふうなことがこの事業にも適用されて、やっていくということであるんなら、まだ何ぼか、そういうこの就農支援の関係でやっていかれる人もおるんかなと思うけど、きょうの三徳園の話聞きようたら、人数的に聞いても、ちょっと、赤磐市が数字的には40%ぐらいの比率で言われておりましたけども、これつくっていいことになるんかなというのを一番に感じたんで。ですからもう委員会としても、この事業を進めていくのが本当に赤磐市としてふさわしいものか。本当に支援センターの目的が達成できるんかということについて、私はもう、きょう、三徳園へ行って見た限り、ちょっと難しいんじゃないかなということをおもうんですが。あそこも29年から入ってやられたと言うたんか。じゃけど、うちはまだこれからやって、いろんな問題も抱えとる。きょうも三徳園で問題にされとったのは、講師の先生方の都合のことも言われとった。こういうような諸問題が残っとなる中で、どんどんどんどんお金だけかけてやったわ、何をしたんならということにならんようにするんなら、もう今、幾らかのお金を投入しとります。これではっきりこの事業は、もう私は三徳園さんのほうへ任せて、赤磐市はやめて、あそこを新たなものの施設に使うほうが賢明じゃなかろうかというふういきょう感じたわけなんですけど、ほかの委員さん、どうか知りませんが、執行部のほうも、花火上げとんじゃからやらにゃあいけんと言われるかもしれませんけど、余り可能性ないものをやるというのもやっぱしどうかなと思うんで。

○委員長（佐々木雄司君） 執行部、今までのところで何かお答えいただけるものがありますか。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 有馬産業振興部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 佐藤委員さんの先ほどのお話でございますけども、これまで進めておりました事業を全て白紙にしたわけではございません。外的環境があのような施設ができたり、スマート農業、こうした取り組みも視野に入れて赤磐市の将来を見据えていかなければならないということで、そうした計画書を製作して、より明確なものにしたいという考えでおるところでございます。当初の御説明は、これまでにしてきましたとおり就農支援、こうしたものは赤磐市の農業を取り巻く環境では喫緊の課題でございまして、これからも引き続き進めていかなければならないと考えております。こうしたところは従前の説明と変わりないと

ということで、御理解のほうをお願いしたいと思います。

行本委員さんのほうから、そうした就農支援の事業を全て三徳園に任せてはとか、規模的に土地のほう面積が非常に小さいからという御心配もいただきました。いずれにいたしましても、あの土地は本市にとりまして農業振興に非常に重要な土地であるというふうに理解しております、ない袖は振れないわけではございますけども、今、岡山県のほうから取得いたしております土地、こちらのほう、有効に活用して、農業振興に役立てていきたいというふうに考えております。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 私が質問した中の農業振興の計画の関係で1,300万円からのお金を見とんですけど、この請負業者に任せていいものができるんですか、ほんまに。わしはそれも質問したはずですよ。片一方じゃあ、みんなと話し合いをしてから方向性を決めにゃあいけんというようなことを言うて、ほんならこの1,300万円のお金をかけて、できるんかな。そうじゃなかろう。基本的に言うたら、そういう前に、地域の皆さんにいろいろこれから長く携わっていく人との話をして、方向性を決めて、というものに使うんならわかるけど、ここの業者に頼んで、ほんなら満足したものができるか。そういう実績持つとんですか。これを答弁願います。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 有馬産業振興部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） こちらへ委託業務としてお願いしております内容につきましては、向こうのほう勝手につくって、こちらのほうへ納品という形は想定しておりません。今、農業関係者にアンケートの準備を進めておりまして、農家の方々、それから農業関係機関、こうした方々の御意見をいただいたものを整理していただきたいというふうに考えております。整理の過程では、いろんな会議の場にまた情報提供ができると思いますので、さまざまな方々からの御意見をいただきながら、この計画書を練っていきたいと考えております。

以上です。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 1,295万8,000円という細かいとこの数字まで出とんじゃけど。これで、ほんなら1,300万円ものお金はどう使うんですか。それをわかるように説明してくれえ。ちゃんと積算しとんじゃから積算根拠はあろうが。

○委員長（佐々木雄司君） ちょっと暫時休憩させてください。

午後1時57分 休憩

午後2時0分 再開

○委員長（佐々木雄司君） 再開いたします。

今、行本委員のほうから質疑出ました、農業振興基本計画策定委託業務についての説明を概略的にしていただきますようお願いをいたします。資料の用意が必要だということなので、このまま進めさせていただいて、でき次第、お知らせください。また御説明をしていただけるようにしますので。

そのほか、委員さんのほうで質疑はありますか。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐々木雄司君） なければ、次の課のほうに行かせていただきたいと思います。

商工観光課関係で質疑はございますでしょうか。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 花火のことなんじゃけど、6時から始めて、花火の打ち上げは8時ごろからかな。去年も行ったんじゃけども、ちょうど西日をあおって暑いときに式をせにゃあいけん。あの式の時間をもう少し考えられんもんかな。式が済んだら花火が始まるとかな。あんな暑いときに、どうでもええと思うんじゃ。去年も言うとはずじゃけど。一つも考えてねえ。どねんするんなら。

○委員長（佐々木雄司君） 運営についてだと思います。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） 今、行本委員から御指摘のありました式の時間ですが、ことしもその時間で計画をさせていただいております。大変申しわけありませんが、それでお願いできたらと思っております。

以上です。

○委員長（佐々木雄司君） そのほかありますか。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） 4点目の外国人旅行者受け入れ環境調査についてお伺い、確認したいんですけども、観光環境の充実や観光資源の開発を目的とするということなんですけども、具体的に、どこを回るんでしょうか。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） 具体的にということですが、吉井川流域のほうを検討しておりまして、瀬戸内市から和気町、最後に赤磐市、赤磐市の中でも英国庭園、それからそのほかにはリゾートハウス是里のほうへ泊まっていただくような計画で、今思っておりまして、それ

から赤磐市では桃狩りのほうをやっていただいて、できればお土産に桃を購入していただくようなことを考えております。

以上です。

○委員長（佐々木雄司君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） ということは、予算的にはDMOが出すという話なんですか。予算はどのようなふうな形になってるんですか。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） 市のほうの予算で、吉井川DMOへ委託をいたしまして行う予定です。費用は、レンタカー代、それから入園料、外国人スタッフの宿泊代を含んでおります。約10万円程度、こういうふうなものを見込んでおります。

以上です。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） ちょっと関連してなんですけど、インバウンドの関係なんですけど、パンフレットなんか外国語でつくられていると思うんですけども、最近テレビで見ましたら、観光の案内であるとかパンフレットに物すごく間違いがあって、何で間違いがあったんですかと、こういうようなテレビでやってて、翻訳機を使ってやってるので、誰も全く気がつかなくて、全くとんちんかんな案内を出してたりパンフレットになってたりというふうな、テレビでやってましたけど、念のためにお伺いしますけども、赤磐市はそんなことはないですよ。ちょっとその確認です。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） 大丈夫だと思っております。

以上です。

○委員長（佐々木雄司君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） パンフレット等は、結局そういう専門業者に頼んでやってると、こういう理解でよろしいんですか。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） 治徳委員のおっしゃるとおりでございます。

以上です。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 英国庭園について、解体の分は出とるのはわかるんですが、前回入札

の不備で、予算を流してやっとなる分について、前のときには、話を聞くのに、基礎か何かするのに1メートルかそのぐれえを掘らんといけんとか、そういうようなことも聞いたりはしとんでですけど、設計自体を、もっと現地に合うたような設計にせにゃあいけんと思うんで、だからそこらのとこをいつごろにそういう方向で検討されて、いつ残った事業を完了さすつもりですか。今年度中にするんか、それとも来年度になってもいいから今年度中にそういう設計の段階を造園業者等の話を聞いたりして、建築の設計会社にそんなものを委託してみたところになかなかわかるもんじゃねえと思うんで、やっぱり現地に合うたものを最小限、バラの花に影響、根に影響を与えないような事業をやっていけるような、そこをまず考えて、そうすればもちろん時期的なもんもあるわけじゃから、そこらを十分協議してもらって、それからやってもらわんと、前の二の舞になるようなことをやったんではいけんので、まだ今予算としては全然補正予算も組まれてないんじゃから、組む前に十分そこら、現場の状況を理解された中で設計を進めていけるようにと私は思よんですけど、執行部のほうはどういうふうに考えられとんのですか。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） 行本委員の御意見も参考にしながら、今後、支所とも協議を行いまして、予算を組んでいきたいと思います。

以上です。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 余り、補強もしてあるから、そう急いで、遅うても来年度中ぐれえにはせにゃあいけんと思うんで、そういうことで必ず早くできるように頼みます。

○委員（金谷文則君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） 先ほどちょっと治徳委員から質問があつとった外国人旅行者の受け入れ環境調査というところで、先ほどの話では、DMO、吉井川流域の関係ということは、赤磐に関するところをそう回っていかれるということなんですかね。それで、2泊3日で、ちょうどこの8月4日から8月6日というたらニュージーランドの女子ホッケーチームが来て、皆さんでお迎えをしてやろうという、ちょうど時期に重なってますけども、そこら辺は商工観光のほうはこちらの人のほうへ力を注いでいかれるような格好なんですかね。お願いします。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） この事業につきましては、吉井川DMOのお力をかりまして、この外国人受け入れ環境調査のほうを実施していくようなことになろうかと思えます。

ニュージーランドの選手の受け入れなんですけど、市の商工観光課のほうも、教育委員会に協

力していきたいと考えております。

以上です。

○委員（金谷文則君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） ありがとうございます。当然、せっかくのイベントですからそうしてもらわなきゃいかんのと、ちょうどそれは商工観光、すごく関係してくるようなことじゃないのかなというふうに思ったので質問をしたんですが、ニュージーランドからわざわざ24人、30人近くの人に来て、赤磐で練習してもらう。それからまた11日、花火も参加してもらおうというようなことがあれば、それが商工観光につながるものであって、DMOにどうのこうのと言うよりも、もっと積極的に自分たち、赤磐市の商工観光が自分の足で自分の目でそういうものを把握しないと、人にお任せっていうのは僕はよくないんじゃないかな。それから、DMOのCEOか何かだった人もおやめになってかわられてるというふうなことだろうと思うんで、余りそこへお願いをするというのは、赤磐市としては賛成しかねる。赤磐としてやっていただきたいと思うんですが。英国庭園についてももしっかり自分たちの声でPRしてもらわないとだめだと思いますけど、いかがなものでしょうか。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） この外国人の受け入れ環境調査につきましては、JALの外国人スタッフの方が来られて、外国人の目で見えた観光施設のいいところ、それからここはちょっと改善が必要じゃないかというような、外国人目線の調査になっております。そういうところで、私どももそういうところがわかればいいんですが、外国人の方の目線でいいもの悪いものというようなところを調べるようになっております。

以上です。

○委員（金谷文則君） 済いません。

○委員長（佐々木雄司君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） 言いたくなかったけど、それで赤磐市のどこへ連れていくのか。赤磐市の商工観光が、ここは赤磐の観光のメインとして考えてんだ、ここを見てほしいというところを案内していかないのかなって、素朴な疑問ですよ。DMOなんて、全くの人に任せっ放し、もう自分たちでやればいいじゃないですか。みんなでやったほうがいいと思うし、自分たちが把握してないんじゃないですか。どこへ連れていくのか教えてください。どこに行ってもらうん、勝手に行ってもらうんですか。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） この事業自体が、外国人スタッフが自分で調べたところを回

るのが基本となります。なのですが、この時期、赤磐市のほうは果物、特に桃の時期でございます。観光農園でありますとか、そういったところを回っていただきたいというようなことで市のほうも考えております。それから、あとは熊山英国庭園、それからリゾートハウス是里などで宿泊をしていただくような計画になっております。

以上です。

○委員（金谷文則君） もう結構です。済いません。ありがとうございました。

○委員長（佐々木雄司君） そのほか何かありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐々木雄司君） ないようでしたら、25分まで休憩といたします。

午後2時14分 休憩

午後2時25分 再開

○委員長（佐々木雄司君） 再開いたします。

産業振興部の質疑ですが、ほかに質疑のほうはありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐々木雄司君） ないようでしたら、産業振興部の質疑はこれで終了したいと思います。

では、先ほど農林課の説明のほうは、一番最後にもう一度時間をとりますので、そちらのほうで御説明いただきますようによろしくお願いいたします。

それでは、建設事業部のほうの御説明をよろしくお願いいたします。

○建設事業部長（杉原洋二君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 杉原建設事業部長。

○建設事業部長（杉原洋二君） それでは、建設事業部のほうより、建設課、上下水道課、地域整備推進室、それぞれ事業の進捗状況について、担当課長より報告をさせていただきます。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） それでは、建設課の事業の進捗状況について説明をします。

建設事業部資料の2ページをお願いいたします。

平成30年度から令和元年度に繰り越した建設課主要事業の一覧です。農地費関係が1件、林業振興費関係が1件、道路維持費関係が2件、道路新設改良費関係が2件、都市計画総務費関係が1件あり、7月1日現在の進捗状況は一覧表のとおりであります。3件が完了しております。都市計画総務費関係、番号1については、県災害復旧工事との工事間流用を行い、仮設道に利用していた残土等により盛り土するよう計画しておりましたが、その県工事の遅延により、盛り土が当初計画のとおり搬入できなかったため、工期が延期となっております。

続きまして、3ページをお願いします。

同じく平成30年度から令和元年度に繰り越した建設課主要事業の一覧ですが、このページには災害復旧費関係をまとめております。農林水産施設災害復旧費関係が20件、公共土木施設災害復旧費関係が4件であり、7月1日現在の進捗状況は一覧表のとおりで、11件が完了しております。農林水産施設災害復旧費関係、番号4と5については、複数にわたる箇所を1つの工事としてまとめた同一地区内の工事であり、交通規制による日常生活、営農活動等の影響が最小限となるよう工事を進めているため、工期が延期となっております。

続きまして、4ページから6ページが令和元年度建設課主要事業の一覧です。4ページには農地費関係と林業振興費関係、5ページには道路維持費関係と道路新設改良費関係と河川総務費関係、6ページには都市計画総務費関係と住宅費関係を記載しており、それぞれ概要、事業費、契約時期、完成予定年月を記載しております。6ページに記載しております都市計画総務費関係、番号1については、県工事の遅延により造成工事の工期が延期となっており、それに伴い発注時期の見直しを行い、第2四半期発注に向けて準備を進めております。

以上で建設課の進捗状況についての説明を終わります。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 続いて、上下水道課の事業進捗について御説明します。

建設事業部資料の8ページをお願いします。

まず、30年度からの繰越事業です。

繰越事業については、下水道事業が10件、水道事業が4件で、7月1日現在の進捗率は一覧表のとおりで、8件が完了しています。下水道事業の番号1については、交通規制等で日常生活、営農活動等の影響が最小限となるよう工事を進めているため、工期を延期しています。

続いて、9ページをお願いします。

令和元年度の下水道事業です。

山陽処理区については10件、熊山処理区については1件で、7月1日現在の進捗率は一覧表のとおりです。

続いて、10ページをお願いします。

令和元年度の水道事業です。

水道事業については13件で、7月1日現在の進捗率は一覧表のとおりです。番号11番については、県道改良工事との工程調整等により、工事発注を第1四半期から第2四半期に見直しをしております。現在、上半期発注に向けて準備を進めておるところです。

以上で上下水道課の事業進捗状況について説明を終わります。

○地域整備推進室長（菊池良典君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 菊池地域整備推進室長。

○地域整備推進室長（菊池良典君） 地域整備推進室より、資料16ページの事業の進捗状況の

道路保守に係る実証実験について説明させていただきます。

5月の産業建設常任委員会において報告させていただきました道路保守に係る実証実験について、さらなる市民サービスの向上や安全対策等につながるなど、よりよい実験にするため、岡山県、警察、岡山大学やトヨタなどの協力や意見交換などを行うために、令和元年7月23日火曜日に協議会を立ち上げて、第1回目の協議会を実施し、実験を開始したいと思っております。

以上でございます。

○委員長（佐々木雄司君） 建設事業部の説明が終わりました。

建設事業部の質疑のほうも、先ほどの産業振興部同様、課ごとに行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、建設課への質疑ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐々木雄司君） 建設課ないようでしたら、続きまして上下水道課への質疑に入りたいと思います。

何かありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐々木雄司君） なければ、続いて地域整備推進室についての質疑に入りたいと思います。

何かありますでしょうか。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 道路補修に係る実証実験についてというのは、前言われようたトヨタ自動車の件ですか。まだやる気になっとん、あれ。どういう効果があって、メリットがどういうものか、もっとよう説明してくれ。わからん。

○地域整備推進室長（菊池良典君） はい。

○委員長（佐々木雄司君） 菊池室長。

○地域整備推進室長（菊池良典君） 5月の産建委員会で説明させていただいた内容をちょっと簡単に説明させていただきます。

まず、今、実際走ってるコネクティッドカーがございます。今走っている車がいろんなデータを持ってます。データで、例えば路面補修、道路の通っているところの振動なんかで、要は振動が大きければ道路が悪くなってる可能性があるとか、そういったものをデータで集めて、それを現場を見ると、悪くなってるから補修するとか、そういったことのデータを集めていくとか、それから例えば急ブレーキを踏んだ場所がわかったり、そうすると例えば交差点ではな

いのに急ブレーキを踏んだということがわかれば、現場に行ってみると、例えば何かほかの問題があって危ない、何かがあったということがわかって交通安全対策ができるとかということ、この2年間でいろいろなデータを集めていろいろと実験していくということで、まだ予算が一切かからない状態でございます。2年間実験をした後に、費用対効果を踏まえて、今後続けていくかどうかということでございます。

以上です。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 路線は、どの辺をするんですか。全市道できるんですか。

○地域整備推進室長（菊池良典君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 菊池室長。

○地域整備推進室長（菊池良典君） 道路は、今勝手に、勝手にと言うたら本当に申しわけないんですが、道路、いろんな車が走っております。その走っている車のデータが勝手にトヨタのほうに集まってきます。なので、大きな道、県道なんかについてはたくさん通ってるでしょうし、市道についても多少車は通りますので、路線というのは決まっておりませんが、今の段階では山陽地域、山陽インターもでございます。それからできた時代が違う大きな団地が2つございます。それから、中山間地域もでございますので、山陽地域を対象として実験をしていきたいと今考えております。

以上です。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 山陽地域だけというのは、私の記憶じゃあ、きょう初めて聞くと思うんじゃないけど、ほかの人はどうか。わしは物忘れ、最近ようなつとるから何ですけど。それは初めてで、先ほどから言うてる市道というのは、2メートルの市道もあれば4メートル、5メートルの市道もあるわ。全てのところが調査できて、山陽だけでやるというたら、前の自動運転の分と一緒に、山陽地区だけを対象にしたようなことで、山陽団地を云々じゃという、それも運転手がどうのという話を、今の道路交通法上からいうたら全然人が足らんのが補われるようなことにはなってねえわ。やりたいんじゃないと、こういうようなことでやって、結局予案を棒に振ったような結果になつとるわな。それと一緒に。テレビがちょうど、いつじゃったかな。

1日か2日前に、9時からじゃった、途中まで見て寝たんじゃけど、自動車が空を飛びます、海の中に行きますとかというような、次世代の、オリンピックぐらいのこままでにしたいんじゃないというような番組じゃったんじゃないけど、途中で寝てしもうたんじゃからわしもよう覚えてないんですけど。それと一緒に、全域をもってやられるというんならまだわかるけど、赤磐市の中で山陽地域だけを。まあ団地が2つ、大きな団地があるからというたら、その中とそれにつ

ながつとる県道、並びに市道ぐらいしかないと思うんじゃけど。それをほんなら2年やってもろうて、やってもろうた以上、ただでやってもろうてえてよ、ただというのは高えもんにつくもんじゃと思うけん、わし。せんほうがええと思うんじゃけどな。実際、それだけのほんなら、急ブレーキ痕があるじゃ、凹凸があるから振動でどうのこうのいうの、そりゃあ言われるのはわかるよ。だけど、普通の車が走っていても、そんな機械がのうても、振動が悪かったり何かするのはわかるはずなんですよ。最近になってそこの新下橋のところが舗装が壊れかけたからスムーズになった。前のときにはこねんなりようた。あの程度の、そりゃあかなりの振動が出てくるじゃろうけど、そんなものは一々そんなトヨタの車に頼まんでも、都合する者は何ぼでもおると思うよ。何であそこの道ええようにしてくれんのん。たまたまあそこは県道じゃから、市のほうにはえろう言うてこんのんかもしれんけど。もうちょっとましな事業でこんのんか、こんなわけのわからん、先でまた要らん銭を使うようなこと、わしはこれには反対じゃ。

○委員長（佐々木雄司君） 菊池室長。

○地域整備推進室長（菊池良典君） まず、山陽地域という御指摘ですが、5月にも報告させていただいたと思うんですけども、とりあえず山陽地域で始めさせていただいて、実験の結果を見ながら、広げていくことも視野に入れております。事業といたしましては、一応トヨタ側からの申し入れとして、2年間、赤磐市へのフィールドの提供と、それから実験の協力の要請が来ております。2年間は一切費用の負担はなしでございます。3年目には、効果を見まして、事業をやめていくことも全然問題ないということで伺っておりますので、一応実験をして、効果がなければやめていけばいいと思っております。

以上です。

○委員長（佐々木雄司君） そのほか、何かありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐々木雄司君） それでは、建設事業部の質疑はこれで終わりたいと思います。

続きまして、3番目、その他の項目に入らせていただきます。

その他で、委員さんまたは執行部から何かありましたら御発言をお願いいたします。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） それでは、その他でございます。

産業振興部の資料のその他です。ページ数が2ページでございます。

真ん中あたりですけど、2のその他、(1)をごらんいただきまして、①の就農等支援センターの活動事業でございますけれども、ハード面ばかりが目立つんですけど、実際本庁のほうで行っておりますソフトのものでございます。

現在、本庁で業務を行っております就農等支援センター事業の活動状況でございます。①の

就農相談につきましては、30年度中におきまして、延べ88人から相談を受けております。それから、②の新規就農者の状況の表をごらんいただきますと、昨年度中に7名の方が新規就農をされております。市の総合計画におきましては、新規就農者数の目標を、26年度末から31年度、令和元年度までで21人増の目標としておりますところ、現在におきまして、その目標を上回る28人増となっております。また、現在、赤磐市内の認定農業者数は106人、それから認定新規就農者数は13人でございます。

それから、次に農地中間管理事業によります農地の利用集積状況でございますけれども、資料は3ページの③番をごらんください。年度ごとに集積が進んでおります、貸し付けの面積をお示ししておりますけれども、30年度までで66.2ヘクタールの貸し付けが行われております。

それから、④番の農作物の果樹の年度別生産等実績につきましては、直近3年間の実績をJ Aさんの資料に基づきまして掲載しております。

以上が資料の御報告でございます。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） それでは、商工観光課のその他ということで、産業振興部資料6ページをお願いいたします。

その他で(1)日本遺産おもてなしプログラム実践ワークショップについてでございます。

資料は9ページ、10ページとなります。

日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」推進協議会の普及啓発事業でございます。

この日本遺産エリアを訪れる観光客が楽しむことのできる体験型おもてなしプログラムを創出するとともに、観光客にこの日本遺産の魅力を積極的に伝える人材を育成することを目的にセミナーが開催され、セミナーで作成されたおもてなしプログラムを10月から12月にかけて実施いたしまして、令和2年1月下旬に報告を行う予定となっております。

続きまして、資料の6ページのほうへお願いいたします。

(2)桃太郎伝説鬼詣岡山見聞録についてでございます。

資料は11ページをごらんください。

山陽新聞社の主催で災害復興、観光支援を目的いたしまして、スマートフォンのゲームアプリを使いまして、県内の観光地で鬼のキャラクターを捕獲してもらい、赤磐市では英国庭園が対象の観光地となっております。捕獲数に応じまして岡山県内の特産品がもらえるという企画でございます。県内の全市町村が参加をいたしております。実施期間につきましては、令和元年7月17日から令和2年8月31日までとなっております。

それから、資料を別で1枚つけさせていただきます。吉井川地区魅力発信フォーラムについてでございます。

こちらのほうは、吉井川DMOの設立を記念しまして、広域観光についての啓発を目的に、吉井川流域魅力発信フォーラムが、8月19日月曜日13時から山陽新聞社さん太ホールで開催されます。ぜひ御参加いただけたらと思いますので、御案内いたします。よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 続いて、上下水道課のその他について説明をさせていただきます。

建設事業部資料の11ページをお願いいたします。

赤磐市上下水道分野官民連携手法による経営効率化調査検討について御報告をします。

こちらについては、以前、当委員会において報告をさせていただいておりました。目的としては、赤磐市の上下水道事業経営において、人口減少による料金収入の減少、施設の老朽化に伴う更新等、今後経営が厳しくなることが想定される中、経営の安定、また効率化を図るため、官民連携手法による調査検討業務を実施しました。11ページには、調査対象となる現在の赤磐市の水道事業、下水道事業の概要を記載しております。水道事業については、企業団受水が主となっており、施設の維持管理等を行っています。また、下水道事業については、7つの処理区で施設の維持管理等を行っています。

資料の12ページをお願いいたします。

こちらでは、調査の流れとして、現状を整理し分析した上で、設計、施工、維持管理などについて官民連携手法を用いて検討し、導入した場合には、上下水道一体としては一定の効果があることを確認しております。

資料の13ページをお願いいたします。

こちらには、現状を整理した上で、水道事業、下水道事業、それぞれの課題を抽出しています。

資料の14ページをお願いいたします。

こちらでは、事業化を検討するための対象施設、対象業務及び事業手法を抽出しています。

資料15ページをお願いいたします。

導入に当たって想定される法的な課題等を抽出しております。

今後の上下水道事業の経営の安定を図るためにも、今回の結果をもとに今後も引き続き詳細に検討してまいります。

以上で説明を終わります。

○委員長（佐々木雄司君） 執行部のほうから説明がありました。

今までのところで委員の皆さん、質疑がありましたらどうぞよろしくお願いいたします。

- 委員（行本恭庸君） 委員長。
- 委員長（佐々木雄司君） 行本委員。
- 委員（行本恭庸君） 15ページのPPP導入のPPPというのは何か。意味を教えてください。
- 上下水道課長（金島正樹君） 委員長。
- 委員長（佐々木雄司君） 金島上下水道課長。
- 上下水道課長（金島正樹君） PPPとは、官民が連携して公共サービスの提供を行うことです。
- 委員（行本恭庸君） 今度からちゃんと注釈入れといてくれ、わからんから。
- 委員長（佐々木雄司君） そのほか何かありますでしょうか。
治徳委員。
- 委員（治徳義明君） その他の説明で、産業振興部の3ページの④の説明はありましたか。
もう一度お願いします。
- 委員長（佐々木雄司君） 3ページの④の農作物（果樹）の年度別生産等実績について、もう一度、御説明いただけますか。
- 農林課長（矢部 勉君） はい。
- 委員長（佐々木雄司君） 矢部農林課長。
- 農林課長（矢部 勉君） ただいま委員おっしゃられたのは、④の農作物の年度別生産等実績についてということで、名称で流したんですけども、主に果樹、ぶどうと桃の実績でございます。ぶどうにつきましては、直近3カ年で栽培面積につきまして、若干ながらふえています。それから、販売量は横ばい傾向かなと思われましても、販売額とか販売単価は伸びております。これはなぜかということなんですけども、分析としては、シャインがかなりふえてきているというふうなことが考えられます。実際に数量もふえております。それから、桃につきましては、栽培面積はこの直近3カ年では変わりはありません。ですけども、30年度について、あるいは天候不順でなりが悪かったというのもありますので、そういったことがやっぱり要因として考えられております。
- 以上でございます。
- 委員長（佐々木雄司君） 矢部課長、シャインはシャインマスカットのことでよろしいですか。
- 農林課長（矢部 勉君） 濟いません、シャインマスカットです。
- 委員長（佐々木雄司君） そのほか何かありますでしょうか。
- 委員（行本恭庸君） はい。
- 委員長（佐々木雄司君） 行本委員。
- 委員（行本恭庸君） 産業振興部の3ページのとこの③農地の利用の集積状況という一覧表

があるんですが、これも農地の貸し借りの分じゃと思うんですが、数字的には伸びては来とんですが、全体の農地の耕作面積からいうたらどういう推移になるんですか。マイナスですか。荒廃地はふえとるか、それとも現状維持なんか。

それから、実際、農地の貸し借りというのは、これからどんどんふえてくると思うんじゃ。その数字はわかる。だけど、全体の農地がどういうふうに動きよんかというのを知りたいから聞きよんです。それに対する答えをください。

○委員長（佐々木雄司君） すぐに出ますか。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） ただいまの委員の質問ですけれども、御質問にお答えできるようなデータを今ちょっと持ち合わせてないので、また。

○委員（行本恭庸君） 今度。

○委員長（佐々木雄司君） 何か出ますか。

○委員（行本恭庸君） まあ、別にできにゃあええんよ、次で。

○農林課長（矢部 勉君） 耕地面積の比較ですけれども、平成29年ですと25.4平方キロメートルです。それから、30年度が25平方キロメートル、若干これ、少し耕地面積が減っている状況になります。2年だけの対比ですけど。

○委員長（佐々木雄司君） よろしいですか。

行本委員。

○委員（行本恭庸君） それは実際減つとんでしょうけど、もともと水田として上げられとる面積もあらあな。だから、それがどういうふうにも今、荒廃地のほうに移動しとんか、次でもいいです、急ぎませんので。集計できたときに報告してください。

○委員長（佐々木雄司君） じゃあ、矢部課長、よろしくお願いします。

○農林課長（矢部 勉君） はい。

○副委員長（保田 守君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 保田副委員長。

○副委員長（保田 守君） 行本さんのと関連しとんでですけど、これは稲作のみなんですか。果樹とかそういうものもひっくるめて、どうなんでしょうか。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） 実際の貸し借りですので、ほとんどが水稻でしょうけれども、ちょっとその辺、完全に分かれたものでないので、ちょっとわかりません。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 有馬産業振興部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 農地の利用集積の状況については、農地中間管理事業、こちらのほうを使って整理を進めております。カウントの中には、畑、こうしたものも含まれてまいりますけども、先ほど委員御指摘のとおり、水稻のほうがほぼ全体を占めるのかなというふうに思っております。

○副委員長（保田 守君） わかりました。

○委員長（佐々木雄司君） そのほかありますでしょうか。

○委員（金谷文則君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） これ、上下水道の関係で、11ページからの説明をいただいたんですけど、これは要は官でやってる上下水道事業を官民でやっていこうとするのに対しての調査をしましたよと。やっていってますよということですよ。それが1つと、それからこの中で見てみると、これからの下水道計画についての検討ということについての数字的な問題とかというのはないし、これから先、下水道をやっていこうとしたときには、14ページの事業化の検討というところから見ると、まず低いほうへしか行かないから、これから先の下水道は整備していくということはほとんどもうできないというような方向にもう完全に傾いている。こういうふうには受け取れるような中間報告ではないのかなと。そうなったら、その次に何があるのか。今までの問題はなかったのかということが大きく問題になるかと思うんですが、そこら辺はどのように考えてるのか教えてください。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） まず、官民連携で今後やっていくことの調査検討なのかということで、基本的には、今後、上下水道事業経営が厳しくなることが当然ながら想定されます。その中で、現在の経営自体を見直す、そういったことも踏まえて、1つの手法として官民連携でどういったことができやっていけるか、それから最終的にはこの官民連携をすることによって、使用料金とか市民負担の軽減等を考えて、検討のほうをしてまいりたいと思います。

それから、下水道計画についての質問だったと思います。

この業務をやりながら、今後、下水道計画についても未普及地域の整備等も当然関連していきます。その辺のことを踏まえて、今後より詳細に検討して、業務のほうを進めてやっていきたいと思っております。

以上です。

○委員（金谷文則君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） 今議会の中でも一般質問で幾つかあったかと思われそうですが、水道を

こういう形でやっていったときに大きな問題が出てくるんじゃないかというのが、たびたび質問をされることであったかと思えます。それから、また特に下水については、これから先、令和何年度でどうのっていうのはまだできてはないかもしれませんが、平成で言う三十何年度、それからその先50年になるのかっていうときの下水道計画っていうのは、市で示されていたかと思えます。それから、まだ認定ができてないところ、これからどういうふうにやっていくのかという大きな問題があるかと思えます。そこら辺のところをはっきりお示しをいただいて、当然、官民でやったら、今課長がおっしゃられたように安く上がるであろう、それからいろいろメンテナンスでうまいこといくであろうということをはっきりおっしゃられたわけですから、そのように間違いなくなる方向で進めていただければ、当然皆さんから称賛されることだろうと思えますが、本議会の中で、下水道については相当皆さんから質問があります。そのことを本当に、今言われたような答弁でいいのであればそれで結構ですし、それから赤坂方面へ下水をやっていくのかやっついていかないのか、もうそこら辺は、これをこうやって皆さんで検討するときには、はっきりもう赤坂へは下水はやらないんだというようなところまで言わないと、前へ進まないじゃないですか。でも、基本的には合併のときには、赤坂へ下水道やるんだよって合併したように私は聞いております。それはどういうふうな格好になるんですか、教えてください。

○建設事業部長（杉原洋二君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 杉原建設事業部長。

○建設事業部長（杉原洋二君） 委員御指摘の件を踏まえまして、合併時のときに策定をいたしておりました下水道の整備計画、これにつきましては、今後、有意義な方向で実施をしていかなければならないと考えております。

いずれにせよ、先ほど課長申しましたように、人口減少、水量減、料金収入の減等、またその反面といたしまして、維持管理費の増大、施設の更新費用、こういったものがふえてくるのは、これは確実でございます。何らかの経営改善をしていかなければならないという認識で、今回このような業務を検討いたしております。委員御指摘の点を踏まえまして、今年度、さらにこの詳細を詰めていきたいと考えております。結果につきましては、また改めて当委員会のほう、御報告をさせていただきます。

以上です。

○委員（金谷文則君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） 大きな声でお答えをいただいたんですけど、誰が考えても、これから先、人間も少なくなる、人が土地を管理することもできない、そうした中で、人の住んでいないところへ下水を引っ張って行って、費用対効果が上がると考える人は1人もいないと思いますよ。でも、欲しいって願っている人はみんなだと思いますよ。そこら辺をいつまでも引っ張

るだけ引っ張って、それぞれの担当がかわったりすると、それでああよかったのかなと思って、ひょっとしたらですよ。思ってたかかっていくのかわかりませんが、待ってる人の気持ちとか、それからこれから先の予算を考えていく中では、早くどうするか、当たり前としてお金がかかるわけですけど、できないでしょう。私は赤坂の人間としては欲しいですよ。だけど、できないでしょう、現実に。山陽エリアだってできていない部分がまだあるわけで、それをやって、それから予算を国のほうへいつも陳情に上がりますけど、雀の涙しか予算的にはいつももらえてないし、これからそれが倍増するということは、もうまずあり得ないでしょう。それを何で、検討するも、もう民間でするんなら民間にしてもらえばいいじゃないですか、安く上がるであろうと思われるからやっとなでしようから。だけど、赤磐市民全体のことを考えてもらわんといかんと思うんですけど。まず、無理でしょ。できないでしょ。まあ今、結論出せって言っても、担当課長や部長が答えるわけにいかん。市長だって計画はしとりますとしか答えられようがないと思いますけど、これは早く結論を導いてもらわないと、私もついていって、下水のお願いお願いっていつも毎年回らせてもらってますけど、回ったところで後のメンテナンスにはどんどんお金が必要になってくる。当然、お金なんかないじゃないですか。できるわけがないでしょう。そこらは、まあ、きょうあれこれ言うてもしょうがないですけど、早急に決めていってもらわないと。こんなことに要らんお金、検討にかけるよりも、はっきり方針を決めてもらって、実行していくということのほうが大切じゃないかなと私は思いますよ。こんな検討してやって、また報告受けて、こうでしたからよろしくなんて言われても、私たちが、議会が何もその中に入っていく余地もない。先ほどの休憩前の、試験場との間の三徳園まがいのものをしようかということについても同じようなことで、報告だけ受けてたんじゃどうしようもないでしょう。まあ、これも、お答えをいただくというても同じ答えかもしれませんけど、はっきり出していただきたい。きょうじゃなくても構いません。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 今、金谷委員が言われたことは、ずっと前から私言よんよ。だから、そういう、メンテナンス面はこれからどんどんどんどん、だから新しゅう延ばすどころか、もう最初した時分のところから、はあもう改修していかんやあいけんような部分にも入るような状況下の中で、予算のほうも伸びない。もうどんどんそりゃあ経費は上がってくるのはわかり切っとな、言われんでも。だから、ほんならそうかいうて、皆さん待ち焦がれとるものを、今のような特環であろうが公共であろうが、メーター当たり高い単価のものを少ないところへ持って行って引っ張っていくよりか、合併浄化槽というものがあるんじゃから、そっちを考えたらどうですかという話はずっと一般質問でほかの人もされとるし、そういうことは1つも検討されてないじゃない、結果的に。返事ができんということは。どっちが安くつくのかよう考えて、耐用年数の問題じゃなしに。耐用年数で言やあ下水のほうがちよっと長持するんかもしれ

んけど、しかし合併浄化槽は、宅内の分は皆、公共下水であろうが合併浄化槽であろうが個人が負担するわけじゃから。問題は公共ますにかわるものを、公共下水でやっていったら、場所によったら1,000万円から上がかかりようる、1件迎え行くのに。それをたかだか、ほんなら合併浄化槽だけを市が設置するという事になれば、何ぼかかりますか、知れたもんですが。今、どれだけ伸びていくんか、今やっとする事業量に対して。それだけのものを変えたときに。そういう試算も考えにゃあ。そりゃあ確かに約束しとるところは、今継続していきようるところはしていかんやあいけんじゃろうけど、そっから先のところについても、それが済んでから、例えば27年度、平成の何年のというのが今出とらあな。それまで待つてそっから考えるんじゃなしに、今の段階からもう考えて、やっていくべきでしょう。合併したときには、そりゃあ赤坂地域を導入するからと言うて、あそこはどこなら、立川か、工事の件でも市が先行してからいろいろなことをやっとするわな。赤坂でこういうものをしますというたら、ほんならそれをする見返りで、させられとるわけじゃ。現実的には金を使わされとるわけじゃ。それはまあ仕方ないにしても、現実をどういうふうにするのか。1人でも多くが文化的な生活を送ってもらうためには、もう合併浄化槽ぐらいしか残ってない。何でそれをすいいほど言ようるのに、そういう計画が、さわれないのか、そこを教えてください。何にこだわっとんのですか。

○建設事業部長（杉原洋二君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 杉原建設事業部長。

○建設事業部長（杉原洋二君） 下水道整備エリアにつきましては、整備を認可をとる際に効果的な方法、費用対効果、こういったものを検証し、下水の認可区域を設定いたしております。こういった中で、今後どのような方法がいいかというようなことも踏まえまして、今回のこの経営の効率化、調査等を踏まえながら、効果的、最少の経費で最大限の効果が発揮できるような手法を検討していきたいと考えます。

以上です。

○委員（行本恭庸君） それ、いつ出るのか。今の結果、いつ出てくるのか。

○建設事業部長（杉原洋二君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 杉原部長。

○建設事業部長（杉原洋二君） 今年度末、この検討結果のほうが上がってまいります。その後、議会のほうに報告をさせていただきたいと考えます。

以上です。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 市長に聞きますけど、結果がどういう状態が出てくるか、大体予測できると思うんじゃけど。そうしたときに、速やかに、ほんなら今の私の言うた合併浄化槽の対応について、よう考えてそれをしてください。頼みますで。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 友實市長。

○市長（友實武則君） お尋ねの下水道の浄化槽と下水道のさび分け、これエリア的なものを色分けが必要かと思います。下水道で整備するほうが経済的なエリア、あるいは合併浄化槽でないと経済効果が発揮できないエリア、そういったものをお示ししながら、下水道で整備すべきところは下水道で整備するという方針で進めたいと、そう思っております。その計画をお示しするように考えております。

以上です。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） そんなものは、言われんでもあんだ。ランニングコストが高うかかるのはわかり切るとるじゃねえか、こっから先するのに。今までの家の中、多いとこへ行って、そりゃあ確かに口径の大きいものをせにゃあいけん、深うも掘らにゃあいけんじゃという問題があるかもしれん。だけど、基本的に考えてみい。三々五々散らばるととこへ、ほんなら管を延ばして行って、ランニングコストが安くつくわけなからう、現実考えても。そうなったら、やっぱし個々の家を対象に、でもどどんこれからは空き家がふえてくるような状況下じゃろう。ほんなら、空き家が減ろうがどうしようが、要望されととこに対応していくためには、もう飛び飛びであっても、要望受けたとこを進めていく、そりゃあ、合併浄化槽が一番ランニングコストは少のうてええ、皆さんに期待を、確かに合併浄化槽設置しととこ、わしもしとったけど、そりゃあ、天候によつたらにおうときもある。しかし、公共下水じゃつたらにおいはせんじゃねえか。それだけの差はあっても、しかしながら水洗でやるということは同じじゃから。そういうとこを、衛生を保つためにはそういう方法を、多少のにおいの件やこう、辛抱してもらわにゃあいけんとこは辛抱してもろうて、早期にそういう、文化的な生活ができるような体制づくりをするのが、私は筋じゃと思うんで。それを時間かけてああじゃこうじゃと言うて、結局はランニングコストのかかるとこをどどんどどん進めていってみたところでええことにならんじゃろ。金がいつまでもつんなら、今。そのほうが先じゃろう、そうかというて、ほんなら値上げをしてから済んでいくようなもんでもないでしょう。よう考えてから答弁してくださいよ。

○委員長（佐々木雄司君） 要望で。

○委員（行本恭庸君） もう言うたってろくなことは言やあへんから、ええもう。

○委員長（佐々木雄司君） そのほか質疑ありますでしょうか、執行部のほう。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐々木雄司君） なければ委員さんのほうから、質疑はありますでしょうか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 私のほうから、実は市民の方が我が家に来られまして、私に尋ねられたことがございます。その件は何かといいますと、当委員会の中で認定をいたしております岩田長尾線の市道、この進捗状況が非常におくれておることについての問い合わせがございました。いや、私は行っておるという説明をしたんですけど、その市民の方は前に行っていないと。

それから、もう1点、岩田に計画をまだしている状況ではないわけでございますけど、予定候補地の道の駅の周辺、この用地買収についても、前に行っていないということを市民の方が我が家に言ってこられます。そのことについて、私は担当部長に確認をさせていただいたら、担当部長の説明は明快に答弁をくださっております。そのことについては、前に行っていない状況ではないけど、二、三の地権者について調整がおくれておることについては認められました。私はその中で、ここからが声を大にして申し上げたいのは、川島副市長が来られて3カ月以上勤務なさっておられます。川島副市長におかれましては、まだ私と会話を交わしておりませんが、何をするために赤磐市に来られたんですか。このことについて携わって、市民との調整をあなたはやられましたか。

それから、私は市長にこのことについても大きな声で申し上げさせていただきたいのが、このことについて、顧問は何をしておられるんですか。顧問はそのための顧問じゃなかったんですか。副市長にしる顧問にしる、仕事をされておられないように私は見えてなりません。そのことが、私は非常に遺憾なんです。市民から非常にそのことについては厳しく私も問われております。しかしながら、私もそのことについては、話をしてない副市長のことを一々私があーだこうだと言うことはできません。それは、はっきり私は市民の方に申し上げております。恐らくそのことについては、市民とは話をしてない副市長ということで、恐らくこれ、広がっておると思いますよ。

また、何もしない顧問に18万9,000円って必要ないでしょう。事業が前に進んでいない責任、原因、このことについて追究をさせていただきたいと思います。川島副市長、答弁してください。

○委員長（佐々木雄司君） 川島副市長。

○副市長（川島明昌君） 先ほど委員から御質問を受けた点におきましては、まだ新拠点整備につきましては、内部的に計画を進めているところでございますので、計画策定について私がかかわって事業を進めようと考えているところでございます。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） あなた来られてから何カ月になるんですか。あなた、来られて3カ月以上たつとる、90日以上たつとるんですよ。そのことについて聞いてない、知らない、冗談じゃないでしょう、それは。何のために、あなた、副市長務められておられるんですか。赤磐市

の中で必要ないじゃないですか、そんな副市長は。仕事する気あるんかねえんか、もう一遍答弁してください。

○委員長（佐々木雄司君） 川島副市長。

○副市長（川島明昌君） 計画策定をしっかりとやってから地元の方にはお話しするという事で考えております。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 計画策定はできとりますがもう。事業が進んでないということを市民から指摘をされておるんです。計画ができてないじゃって、市長、これ、計画できてないんですか。担当部長、このことについて計画できてないんですか。市道岩田長尾線は計画できてないんですか。何ちゅう答弁をされるんですか、あなたは。皆さん、そうじゃないですか。

○委員長（佐々木雄司君） 計画の有無の確認なんですが、執行部、どなたが。市道岩田長尾線の計画の有無の話なんですけど。どなたが答弁できますか。

○委員長（佐々木雄司君） 川島副市長。

○副市長（川島明昌君） 先ほど私が申し述べたのは、新拠点整備のことについてお話ししておりまして、岩田長尾線については、計画が策定されてることは存じ上げております。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 計画ができとるのは知っとられた、なぜそのことについて、あなた、事業の推進をされないんですかということをお聞きしたんですよ。なぜそのことについてあなたは携わらないんですか。携わる必要がないんですか、副市長として。

○委員長（佐々木雄司君） 川島副市長。

○副市長（川島明昌君） 私が携わってないということをごさいます。事業については逐次確認しておりますので、携わっていると自分自身は考えております。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 先ほどの答弁と、あなた、言うことが違うじゃないですか。ころころ答弁変えるような信用性のない発言をしないでください、あなたは。副市長として失格ですよ、それは。じゃあないですか。

○委員長（佐々木雄司君） 川島副市長。

○副市長（川島明昌君） 私は最初から答弁の内容を変えているつもりはございません。最初に考えておりましたのは、新拠点整備についての計画のことでございまして、岩田長尾線については存じておりました。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 存じておりましたで、前に行っていないということを私は指摘してるんですよ。あなたはそのことについてはかかわってないと最初は言いながら、そのことについては知っていますと。かかわってないんですか、その事業について、あなたは。副市長として。

○委員長（佐々木雄司君） 川島副市長。

○副市長（川島明昌君） 事業についてはかかわっております。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 今、最初からそういうふうな答弁されましたか、副市長が。ころころころころ変わる答弁しないでください。委員会軽視も甚だしいですよ、あなたの答弁は。もうよろしいです。次にお聞きします。副市長はもうよろしいですから。

市長、顧問はこのことについて携わっておられないんですか、この事業について。

○委員長（佐々木雄司君） 友實市長。

○市長（友實武則君） この事業というのが、市道岩田長尾線のことと、それから新拠点整備、都市計画についてのことと、大きく枠組みが2つありますけども、都市計画に基づいてこの道路もある意味、位置づけもあろうかと思えます。そういう意味では、両事業について、執行部内部の指揮指導について、深く携わっていただいております。また、県関係課との調整もしていただいているということでございます。

以上です。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いやいや、携わっておられながら、事業が前に進んでいないということ、私は市民から指摘をされておるんです。そのことについて、国から来られた川島副市長、そして県のOBの顧問の方がおられて、なぜこの事業が前に行かないんですかということ、を市民に指摘されとるんです。私も同じ考え方持っております、そのことについては。必要ないじゃないですか、そんな人は。職員が、要するに地元の調整は市民とかかわりのある職員が行って調整をする、あるいは市長が直接行って調整されるというのが、一番、私は調整ごとには早く結論に導ける状況に至るのではないかなというふうに思っております。全く人間関係のない人が地元に行って何の調整ができるんですか。副市長にしる顧問にしる、地元へ行って地元の方が知っておられる方がおられますか。相手にしてもらえますか。そういうふうな状況の中で事業は行かないでしょうということを、厳しく私は市民に指摘されました。全くそのとおりだと私思っております。そのことについて市長にもお伺いし、副市長にもお伺いしたんです。もう一遍、ちょっと市長に聞いてください。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（佐々木雄司君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 確かに副市長、あるいは顧問の地元に対する接触等が不足しているという御指摘でございますが、それについてはしっかり見直ししながら、反省すべきは反省してまいりたいと思います。

今、この事業の進捗についてですけども、市道岩田長尾線の進捗については、用地買収について大分進んでいると私は認識しております。ただ、現場で目の見える事業の進捗、すなわち道路の盛り土工事とかアスファルトが敷かれたとか、そういった部分の進捗が見えていないのはおっしゃるとおりでございます。そういった部分についても、市民の皆さんに事業の進捗がアピールできるよう、早急に計画、実行をしていきたいと、そう思っております。

以上です。

○委員長（佐々木雄司君） いいですか。

そのほか何か、委員さんのほうからありますでしょうか。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 私、顧問の件なんじゃけど、いろいろ職員に聞いてみても、あの人が来てくれてありがたいことじゃというのを聞いておりませんで1つも。その反対はよう聞くけど。ああいうのが来るともう煩わしいぐらいなもんじゃという、困るんじゃというようなことは耳にしとるけど。市長、そういうような状態の者を頼んでどねんするんですか。それも18万9,000円で、いつ出てきていつ帰るんか知らんけど。それで効果が上がるとんならええよ。顧問頼んで、こうこうこういう問題が難儀しとった分が、あの人が来てこういうアドバイスを職員にして、やったらスムーズにそれができたんじゃと言われるようなことがあったんならいいわ。そうじゃねえ、何か皆、どっちかいうたら厄介者のように、煩わしいうっとうしいようなもんじゃったら、職員も喜ばんのんじゃったら、もうやめときゃあええんじゃねん。要らん錢使うて、227万円か、計算したら、そんな錢を。今の人、いつから雇うとんか。私、前から18万9,000円というのを知っとんじゃけど、いつから今の顧問はいつから来られよんか。

○委員長（佐々木雄司君） 答えられますか。

友實市長。

○市長（友實武則君） 詳しい就任日を記憶してはないんですけども、私が市長に就任して間もなく就任をお願いしたということですから、6年就任をいただいているということになるろうかと思います。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 6年間お金を払うて、1,000万円超すんでしょ。どれだけの効果があったんですか。それは数字的にはあらわせんもんがあるかもしれんけど。職員がうっとうしがっとるような者を頼んでどねんするんですか。

○委員長（佐々木雄司君） ただ、行本さん、職員の人事の話にちょっと今なっているので、人事を答えられる総務部長がこの場におりませんから……。

○委員（行本恭庸君） いや、そうじゃねえわ。そりゃあ、お願いしとんのは、あんた、市長がしたんじゃろ。

○委員長（佐々木雄司君） 事業に関係してというところで、委員会ですから。

○委員（行本恭庸君） いや、いろんな事業がある中で、特に岩田長尾とか、そういうようなところは、十分そういうOBの、プロパーであるんじやから、そういう人の過去の経験を生かしてやって、それが表沙汰になっていい方向に行きよんなら誰もそういう質問しませんわ。

○委員長（佐々木雄司君） だから、その範囲で御質問をしていただいて。

○委員（行本恭庸君） だから、それでしとるが。何の効果があつたんならと言よん。ねかつたらやめたほうがええんじやねんか言よん。

○委員長（佐々木雄司君） 質問としては具体的だと思います。何ら効果が上がってないんじゃないかと、今後どういにかかわりを考えていくのかという質問だと思いますので、執行部のほうで、市長、お答えになりますか。

友實市長。

○市長（友實武則君） 今、新拠点として、岩田及び河本の地域を都市計画の見直し、マスタープラン、地区計画や、立地適正化計画を設定していくという作業をしております。この都市計画の見直しについては、この規模で岡山県南広域都市計画を見直していく、赤磐市にとっては初めての計画だと思います。これを実行していくに当たって、さまざま複雑な手続、あるいは大きな課題を乗り越えていかないといけないということが多々ございます。そういった中で、顧問の岡山県都市計画課長の経験を踏まえて、これが順調に円滑に進むよう、アドバイスをいただいているということでこれまでやってまいりました。先ほども言いましたように、かなりハードルは高いです。このハードルを乗り越えるためには、職員に対しても厳しく指導することが必要になってまいります。そういった中で、やはり大きな叱責ではないですけども、声も大きくなったりすることもあるかと思えます。それだけ内容的に厳しい困難な事例に直面しているということがございます。これを乗り越えるために力を注いでいただくということで、就任をお願いして、これまで6年間で都市計画マスタープランの見直しも終わり、これから線引きに向けての作業に入っていくところでございます。最後、成就するまでお願いができたというふうに思っております。

以上です。

○委員長（佐々木雄司君） という答弁です。

そのほかありますかでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐々木雄司君） ないようでしたら、矢部課長の、先ほどの御説明のほうも残って

おりますので、これでその他の項目は終わりたいと思います。

じゃあ、済いません、矢部課長、先ほどの説明、いいですか。市長、お時間大丈夫ですか。

矢部課長、それじゃあ、先ほどの御説明のほう、改めてお願いできますでしょうか。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） 先ほどの件でございます。この委託業務につきまして、どういった内容のものかということでございますけれども、順番に進めていく内容ですけれども、まず課題の抽出、整理等がございます。これにつきましては、国内外の最新生産需要の動向の調査とか、現状と課題に関する抽出、整理、それから次に将来像、基本目標の設定としまして、市として目指すべき基本目標を設定、それから他業種、分野との連携に関する検討、それから施策案の……。

○委員長（佐々木雄司君） 続けてください。

○農林課長（矢部 勉君） 施策案の検討としまして、将来像の実現に向けた具体的な施策の検討。これの合間には、もちろん協議や打ち合わせもございます。それと、取りまとめ等もございまして、国の補助金とか、どういったものがあるかとかというものも検討してもらいます。そうした中で、中間で御報告等も行っていくというような内容で進めていきたいと考えております。

以上です。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 予算的には委員会で認めて、予算も通つとんじゃから。だけど、改めて、わし、わからんから、ほんなら1,300万円近いお金でも、積算、ちゃんと根拠を、積算しとるからこれだけの費用も出とんじゃから、その内訳出せって言うたが、わし。資料持って説明してくれ。今みたいな抽象的な物の言い方されたら、どうしてそういう数字になるん。理解できんが。じゃから、きょうできんのんなら今度でもええ。ちゃんと資料を、認めとんじゃからわしらが悪いかもしれんけど、やっぱりこれから進めていくのに、わからんなりでおったんじゃいけんよ。だから、数字を、根拠を、これだけのもんで、ほんならその中に国の補助金がどれだけあるとか、実際単市で払うのがどれだけのもんか。借り上げを1つでもするんなら借り上げ何ぼするんか。そういうものと、いろんな項目がある中で、それを足したら、今こへ上げとる1,300万円近いお金がこういうふうになつとんとんとすと、内訳を示した中で、今度はそれについての説明をされなんたらわからんが、今みたいなことを言われたところで。6項目あります、7項目ありますと言うたところで。それはなげにゃあいけんわ、あるからそういう数字になってくるんでしょ。その根拠がわからんから。今まで、わしらが予算認める前にそういう説明をしたか、ほんなら。わしらがお粗末なとこもあつたかもしれん。だから、今改め

て、もう一遍説明してくれえと言よんじゃが。

○委員長（佐々木雄司君） 次回、御用意いただきましょう。

説明を次回、わかるような資料を添付していただいて、こんな内容でしたということで、御説明を再度お願いしたいと思います。

きょうは視察お疲れさまでございました。午前中、視察に足を運んでいただきまして、都合3カ所参りましたが、その中で特にため池、こちらのほうで何か御質疑がありましたら、この時間でお話をしていただけたらというふうに思うんですが、ため池に対して何か御質問はありませんでしょうか。

金谷委員。

○委員（金谷文則君） 今まで11カ所、十何カ所だったものが一遍に三百数十カ所というように、とんでもない数字になって、特に赤磐関係、池が多いかと思えます。たちまちそれが心配だ、それが危ないとかということではないとは思いますが、それぞれ地域があるわけで、どこの池が対象になって、六百幾つの中の三百幾つになるのかな。そういうふうな数字であれば、どれがその池なのかということ、次回でもいいですから一遍示していただいて、我々も注意をする中の一つとしてやっていきたいと思うんですが、どんなもんなんでしょうか。出していただけるならお願いをしたいと思います。

○建設事業部長（杉原洋二君） 委員長。

○委員長（佐々木雄司君） 杉原建設事業部長。

○建設事業部長（杉原洋二君） 御指摘の点を踏まえまして、次回、もしくはその次の委員会のあたりで、資料ができ次第、情報提供していきたいと考えております。

以上です。

○委員（金谷文則君） よろしくお願ひします。

○委員長（佐々木雄司君） そのほか何かありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐々木雄司君） ないようでしたら、これで産業建設常任委員会を閉会したいと思います。

閉会に当たりまして、川島副市長より御挨拶のほうをお願いいたします。

川島副市長。

○副市長（川島明昌君） 本日は午前中、視察、午後、常任委員会と、長時間にわたり現地調査と審査をいただきましてありがとうございます。

常任委員会でもいただきました御意見、御提言につきましては、それを踏まえて執行していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

本日はどうもお疲れさまでした。

○委員長（佐々木雄司君） ありがとうございます。皆様方にはきょう、暑い中、朝早くか

ら視察、委員会と足を運んでいただきありがとうございました。

これで本日の委員会を閉会といたします。

お疲れさまでした。

午後 3 時 37 分 閉会